

第3回 阿波おどり事業検証有識者会議議事録

開催日時 平成30年11月30日(金)午後4時～

開催場所 徳島市役所13階 第2研修室

出席者 委員6名 事務局8名

1 開会

2 議題(1) 阿波おどり事業検証について

【事務局】

資料1 前回会議での質問事項等について

【豊永委員長】

チケット販売の主催者枠について、29年度は19,000枚、30年度は12,000枚となっているが、一般、旅行代理店チケット販売と主催者枠はどのようになっているのか。別紙2で説明があった表はどのように見たらいいのか。

【事務局】

資料2について、主催者で確保し県外の旅行者やおどり連の方に販売した分が紫色で、それとは別に、7月1日の一般販売までに旅行代理店に対して先行販売した分が黄色になる。

【豊永委員長】

資料1の8ページとの関係はどうなのか。

【事務局】

有料演舞場の4日間、前夜祭・選抜阿波おどり、全て含めて、主催者枠は13,725枚になる。

【豊永委員長】

これ以外が、一般販売なのか。席数は1日2万席ぐらいだったのか。

【事務局】

有料演舞場で言うと、13,500席程度×2部×4日=約10万席ある。

主催者枠の販売分については、前夜祭・選抜も含み126,000席のうちの13,700席くらいが実行委員会で販売したことになる。

【豊永委員長】

別紙2は全部売れている訳だが、前回の資料で売れていない席もあるのではないかと。

【事務局】

別紙2について、チケット販売の順番で言うと、まず6月初旬から大手旅行代理店

に販売する。6月中旬以降に中小旅行代理店に販売し、一般販売開始は7月1日からになる。別紙2は7月1日前に確定した表になるため、最終的に青の一般販売部分は売れていない席もある。

【豊永委員長】

黄色の旅行代理店と主催者枠は買い取りになるのか。売れ残ったら戻すことはないのか。

【事務局】

黄色と緑の旅行代理店の部分については買い取りになる。一定の期間を設けてキャンセルを受け付けるが、それ以降は買い取りになる。

【豊永委員長】

キャンセルはどれくらい待つのか。

【事務局】

締め切り後、1、2週間くらいしか待っていない。

【豊永委員長】

一般販売前には確定しているのか。

【事務局】

そうである。

【岡本委員】

この表は実際売れていたものなのか。

【事務局】

黄色と紫色部分は売れたものである。

【豊永委員長】

10何%というとかなり少ないように感じるが、2部制なのでかなり少ないところがあったのではないか。

【事務局】

資料にある12日の1部が一番売れたところになる。

【豊永委員長】

12日1部以外、12日2部などの資料も出すことができるのか。

【事務局】

12日一部が旅行代理店で押さえた部分が多かったため、12日1部を資料とさせていただいた。

【豊永委員長】

12日は1部2部ともにほぼ100%でなかったのか。

【事務局】

2部はだいぶ売れ残っている。

【豊永委員長】

1部は100%、2部は市役所前が44%。市役所前は大手代理店等にチケットを買ってもらえなかったのか。

【事務局】

そういうことになる。

【豊永委員長】

主催者枠については、買い取りになるのか。

【事務局】

主催者枠については、常に販売を行っており、一般販売までに確定しているというのではなく、その都度販売をしている。

【豊永委員長】

いつまで販売を行っているのか。

【事務局】

特に期限を設けているというわけではなく売り続けている。

【豊永委員長】

余ったら場合はどうなるのか。

【事務局】

最後まで残ったチケットについては、コンビニ等で前売り券として販売するようになる。今回は、8月6日ぐらいだったと思うので、7日には前売り券としてコンビニ等で販売した。確か残ったのは5枚くらいであった。

【豊永委員長】

主催者枠は多くなかったということになるのか。

【事務局】

今回、資料1の8ページにあるように、かなり主催者枠の販売分を減少させており、去年22,433枚が、今年13,725枚ということで8,000枚程度少なくなっている。こうしたこともあり、一般販売から主催者の方に回した分もあり、そういった部分も含めて、最後に残った分が6日の5枚ぐらいだったことになる。

【豊永委員長】

ほぼ販売できたということか。

【事務局】

主催者枠のチケットは、ほぼ販売できたことになる。

【豊永委員長】

ある雑誌では、残ったチケットがかなりあったという批判が書かれていたが、今年に限ってはそういうことはなかったとういうことか。

【事務局】

そうである。

【豊永委員長】

別紙2を見ると前夜祭・選抜はかなり一般分が多い。

販売方法を主催者、旅行代理店等、一般と分けているが、一般販売を開始してもすぐ売り切れだったとか、一般の方の意見としてある。また、販売方法以外に総おどりをどうするかも問題である。

【岡本委員】

前回の会議でも意見があったと思うが、年配の方はなかなか買いづらい。ネット販売がどうしてもできない方もいるので、対面販売分を確保して一定期間販売する。それが終わればネット販売に戻すというような工夫をしてもいいかもしれない。販路は広ければ広いほど、手段はあればあるほどいいと思うので、そういったものも検討の一つではないか。

【清水委員】

前回も話したように高齢化が進んでくるなかで、昔のように対面販売していただいた方がいいと思う。

【豊永委員長】

以前はどこで対面販売を行っていたのか。

【事務局】

幸町公園である。

【豊永委員長】

チケットの販売状況、どれだけ空きがあるかは、リアルタイムでわかる方法はないのか。

【福山委員】

映画館のシステムのような席指定で購入することはできないのか。

【豊永委員長】

チケットの販売方法はどのような形になっていたのか。

【事務局】

今年については、購入者はコンビニでは枚数の指定を行い、座席は機械が自動で指定するシステムになっている。観覧日と演舞場のS席やA席などの指定はできる。

【岡本委員】

コンサートも同じである。アットランダムに機械が配席し、座席指定まではできない。

【豊永委員長】

それでは、方向性として対面販売は行うということでどうか。

(異議なし)

チケット購入時、何席余っているとかはわからないのか。事務局では把握できていたのではないか。

【岡本委員】

リアルタイムではわからないのではないか。チケット会社から報告が上がってきた

の確認するという形ではないのか。

【事務局】

チケット販売業者と直接つながっていたが、コンビニ等の販売状況はタイムラグがあった。

【豊永委員長】

残りのチケット枚数が出たらわかりやすい。

今日は対面販売を一定枠で入れるという結論で一致した。

【岡本委員】

資料1の最初のページについて、前回の資料でねぶた祭りは、収支が出ていたが、よさこいソーランは出していないのか。

【事務局】

事務局で確認したところ、金額については公表していないと聞いている。

【豊永委員長】

NHKで放送された番組で収入については出ていなかったのか。

【竹中委員】

比率だけは出ていた。

【岡本委員】

収入の比率は大切だと思うが、単純に考えて札幌は、会社・事業所数が圧倒的に多いので、一社あたりの協賛金を比べた時に、徳島と実はかわらないということになれば、会社数の違いということになる。そうすると徳島の企業に協賛金をもっと増やせといったところで、数が限られているので増えないということになるが、その辺をどうするか。収入構造を見直す時に、企業協賛金の比率を上げていくにしても限界があり、別の方向も考えないといけない。例えば、体験型イベントやノベルティの販売などがある。

【豊永委員長】

私の記憶では、NHKの放送ではよさこいソーランは踊り手が必ず参加費を払う。阿波おどりの比較でいうと、1,800万円くらい出演料を支払っており、よさこいソーランは逆に貰っているということだと思うが。

【事務局】

よさこいソーランについては、金額はわからないが、チケット収入の割合が17%になっている。事務局で確認したところ、4,500席の有料席があり、期間中に1万席売れたと聞いている。仮に1席3,000円だったとすると、チケット収入が3,000万円になる。とすると、協賛金はチケット収入の3倍くらいあるため、それなりの金額が協賛金として入ってきていると想定される。

【豊永委員長】

祭りの構造として、よく似ているのはねぶた祭りである。入場料収入が多くて、補助金、協賛金もよく似ている。

【岡本委員】

ねぶたは参加費をいただいているのではないか。

【事務局】

ねぶた祭りについては、ねぶた自体を実行委員会が制作し、それを参加者に渡している。1団体につき100万円を固定費として実行委員会に支払う。

【岡本委員】

これは毎回でないのではないか。

【事務局】

毎回である。

【豊永委員長】

今はチケットの話から収入の比率に移ったが、対面販売を入れるということは提言に加えるということで、販売をどう行うかまでは、テクニカルな問題があるので、提言には入れない。

来年度はいきなり民間委託というのは難しいので、コンペを行うための全体の仕様書を作成する。作成方法について、業者には問い合わせたのか。

【事務局】

いくつかの全国の祭りを業務委託で運営している業者や広告代理店へ問い合わせをしている。その中で、祭りの一部を請け負っているというところはあるが祭り全体を請け負っているというところは無かった。

【豊永委員長】

祭りの一部ってというのは、どのような意味なのか。

【事務局】

例えば祭りの駐車場運営であったり、チケット販売部分だけである。

【福山委員】

責任の範囲が一部ということで、利益責任ではないということではないか。

【豊永委員長】

それでは、我々が目指している全面委託の場合には何が必要になるのか。

【事務局】

この事業に限らず、業務委託を行う場合、仕様書を作る必要がある。業務内容、期日経費等を算定してコンペにかけていく。今回算定した人件費等も折り込んだ形で、経費を見込んで基礎額を算出する。その仕様書が作れるかどうかにかかってくると思われる。現実には議論が進んでないので、作り始めているわけではないが、今年1年間、実行委員会で阿波おどりの運営を行ったので、今年の阿波おどりの実績を踏まえて、できる範囲のもので作っていく必要がある。ただ、そうは言いながら、全て網羅できているのかということは当然わからないため、一定の段階で事業者と協議に入る必要があるかと思っている。

【豊永委員長】

今回、見えてなかった人件費については、市役所と徳島新聞社の分を算定している。その費用がプラスになるというのはわかるが、あとは経費の部分はもう少し細かい明細がないとわからない。ある程度細かい明細は出すことはできるのか。

【事務局】

現在、決算について明細を作成しているところである。12月上旬には各委員に配布できるように進めている。

【豊永委員長】

仮に明細が出たとしたら、トータルの費用は出るのか。

【福山委員】

法人内で使った分、収入支出があり、今回出てきている標準単価をかけた分の資料を足したら、大体の全体像はわかると思う。

【豊永委員長】

それで全体像は把握できるが、民間委託する資料としてそれで十分なのか。前回の会議で、仕様書も無くどれだけかけたらいいかわからないので、来年は仕様書作成の準備期間とする議論があったと思うが。

【福山委員】

方法として、一部委託なのか、全体の委託を目指すのか。そこを議論しなければならないのではないか。

【事務局】

やはり業務委託を行う際には、業務委託や指定管理者制度は、金額もあるが、実際の業務内容を、どこまで文書化できるかが非常に重たい作業になってくる。それを今年、少なくとも事務局で事業実施したので、できる限り文書化して仕様書を作っていく。経費については、決算や人件費等を含めて一定の基準額は設定できると思うので仕様書の原案みたいなのは、事務局で作れるのではないかと考えている。

【豊永委員長】

そうすると、仕様書の原案が出た段階で、どこまでどの程度委託するかということを議論しなければならない。

全面委託と考えていたが、他の祭りでは例がないのということなのか。

【事務局】

事務局で、確認した範囲では全面受託をしているところはない。

【豊永委員長】

そうすると、ある程度の経費と人件費の部分は出たが、それ以外の明細部分はいつ頃出てくるのか。

【事務局】

12月上旬頃には出させていたきたいと考えている。補足すると、全国の広告代理

店等に確認した時に、全面受託しているところはないと聞いているが、それが、要望が無くてしていないのか、要望があったができないのかでは、全然別の話になってくる。その確認はできていない。

【豊永委員長】

現実問題として、しているところがあればそこは相当ノウハウあるが、そうでなければ、新たなことにチャレンジするかどうかの話になる。

【事務局】

前回の会議の中で、全体のリスクをどう取るのかという議論があったと思うが、大部分を委託し収入まで事業体に取り込んで、その中で民間の力を使って稼いでもらう。赤字が出たとしてもその事業体でかぶってもらおうという議論があり、これはすごく画期的なことである。事務局で調べたところでは、そこまでやっている事業体の確認はできないが、そのようなやり方をすることによって、市税がこれ以上投入されたり、補助金が投入されない。ただ、受け入れる民間事業体とすれば、やったらやった分だけ黒字を出して、稼ぎをもらえるような仕組みや、稼いだ分の内から基金に繰り入れてもらうなど、阿波おどりの振興に役立ててもらおうというような画期的なアイデアを岡本委員からも提示いただいて、その方向で色々考えている状況である。その中で、阿波おどり事業を実施するためにどんなことをしなければならないかということ、実行委員会で1年間通じて運営したので文書化することは可能だと考えている。また一方で、栈敷の仕様書や工事の仕様書の部分と、今回民間委託する分の仕様書というのは意味合いが少し違ってくることがあり、その中で栈敷につきましてもできる限り情報を与えて、それでこのぐらいの収入で、こういったことをこうやってもらうというようなことを提示する形はある程度可能ではないかと考えている。

【豊永委員長】

決算の細かい部分がでなければ、具体的なデータに基づいていないため、詰まった議論にはならない。

【事務局】

また12月上旬には、収支の明細を各委員に送らせていただき、それを踏まえて議論を深めていただきたいと思います。

【豊永委員長】

そうすると、トータルの支出面がある程度明らかになってから、議論することにしたと思う。

【竹中委員】

先程、栈敷の話が出たが、栈敷は一席ごとに販売しているが、これを例えばAブロックとかBブロックというように範囲ごとに販売することはできないのか。

別紙の2でいうと、指定席ではなく、指定枠のような形で販売するのはできないのか。

【事務局】

C席の方は自由席になっており、そういった売り方になっている。

【竹中委員】

ということは、全部指定枠にしようと思っただけなのか。

【事務局】

やろうと思えば、できないことはない。

【岡本委員】

指定席を実施してなかった時代に、席のトラブルが結構多かったようである。要は皆さん6時のスタートにドッと集中するので、せっかく買ったのに栈敷に入れないというクレームが多かった。2部制になってから席のトラブルはなくなったと聞いていたので、2部制の方が良かったのかと思った。

【福山委員】

平成16年に2部制に変わった。

【清水委員】

2部制はトラブルが少なくなるのと、収入が倍入り赤字解消につながるのではないかと、当時の担当者から聞いた。しかし、結果として、2部は空席が目立つ。市役所前演舞場は特にひどいため、抜本的な対策を練らないことには同じことの繰り返しと思う。今まで色々対策も講じてきたことは事実だが、それが結果として、全部マイナスになっている。この場で、自分も意見を持っており、皆さんに諮って、議論していただけたらと思う。

【豊永委員長】

市役所前の14日は17%となっている。

【岡本委員】

15日は雨ではあった。

【豊永委員】

15日は雨であったとしても、14日の他の演舞場は50%を超えており市役所前の販売率はひどい。

【清水委員】

それともう一つ、地元の人が阿波おどり離れしているのではと感じた。というのは、徳島の方は、阿波おどりを開催することは知っていたのにも関わらず、フタを開けてみたら栈敷に客が入っていない。昔はお盆四日間だけだったが、最近は春夏秋冬問わずにいろんなところで阿波おどりをやっている。ある程度見飽きているところがあると思う。今までも赤字が出ており、地元の人にテコ入れをして、こよなく愛してもらうためにはどうするかといったことを考えなければ、こういう結果が出ると思う。

【豊永委員】

このまま、どんどん意見を言っていただき、思ったことを言っていただければと思う。

【清水委員】

今年の踊りにしても、皆さん一生懸命してくれたと思うが、県外依存型の阿波おどり観光になっている。それも大切だが、そのことによって、お客さんが来なければホテル業界も大変だろうし、いろんな点でマイナス面が出てくる。特に市役所前については、2部制を廃止して、1部制にするのはどうか。今は18時スタートの22時30分終了であるが、20時から20時30分までの時間は一番貴重な時間である。その時間帯に、客の入替をするというのは、非常に不合理で今の時代にマッチしてないと思う。当初はそれでよかったと思うが、時代と共に見直しをして、どうしても二部制にするのであれば、17時30分の開場にして、19時30分までの2時間、それから8時までの間に入替をして、20時から22時までに半時間短縮をする。そうすれば、22時に終わると、世話する人も早く帰れるだろうし、夜の商売をしている人のところにも経済効果が波及するのではないかと考える。

【豊永委員長】

それは市役所前だけってことか。それとも全演舞場なのか。

【清水委員】

市役所前も含めて全演舞場。市役所前に限るのであれば、1部制を導入して、例えば21時30分からは以前のように無料開放にすることによって、もしかしたらお客さんがたくさん来てくれるのではないか。しかも1部制ということになれば、当然のことながら、いろんな連を長い時間見えるようになる、そうすれば見に行くという気にもなると思う。

例えば団体客が帰ったら観客が減ると思うが、その時は臨時券を売り出すなど、そういう風なことをしながら、絶えず演舞場を満席にする方法を考えるべきだと思う。一般の方からしても、1部制にしてほしいという声もたくさんある。本来は1部制であるべき。踊る側からしてみると、入れ替えの30分は、見ている人は出て行き、あまり入って来る感じがしない。踊る側はその30分というのはすごく長く感じる。言い換えたら、映画館で2回目の映画を見るという風な感じになり士気も下がる。そういうことを考えると、やはり興行的だと感じる時がある。財政を圧迫しているってということもあり、あまりきつくは言えないが、自分としては率直な意見である。

【豊永委員長】

全部1部制にすると、収入が半減する。

【岡本委員】

市役所前演舞場は前の体制の時でも販売率が振るわなかったもので、運営側としてはテストマーケティングではないが色々試せる演舞場ではある。清水委員の意見のように、市役所前だけ1部制にするっていうのも一つの案であり、ここだけ流し踊りの構成を変えて、1連あたりの時間をたっぷりとして自由に使ってもらい、プレミアム的な席にして入場料収入を少し上げるなど、そういう風な方法もできるのではないかと。色々な方法をここで試してみるのはいいと思う。

市役所前だけ少し離れているイメージがあるが、基本的には決してそうではない。でも現実として販売数が振るわないのは間違いないので、市役所前は他の演舞場とは違う何か付加価値を付ける必要があるのではないか。

【清水委員】

市役所前演舞場に行く道中や踊り子の待機場所が非常に暗い。藍場浜や元町を中心にしたところは絶えず明かりが煌々としている。市役所前だけが、ぼつんと離れている。踊る側からしても、何か一つ盛り上がり欠ける。これは踊り手でないとわからないと思う。予算の関係で非常に厳しいが、最近はLEDという電気代の安い照明器具もできているので、できる範囲で導入していただいて、周辺を明るくしていくことによって人が集まると思う。

【豊永委員長】

今日は提言をまとめる日でないのでどんどん意見を言っていただきたい。活性化のためにいろんな人がいろんなことを意見する方がいいと思う。

例えば実行委員会等でも出た意見だと思うが、市役所前は14日、15日のチケットの売れ行きが悪いので市役所前で総おどりを行うとか。

【清水委員】

今年は阿波おどりイコール総おどりというイメージだったので、名称をはっきりと阿波おどり振興協会14連による総おどりという形にしてあげた方が、対外的にはわかりやすいと思う。振興協会もここまで一生懸命頑張っているのだから、総おどりを南内町の最終だけではなく、他の演舞場や時間帯にも踊るというのも一つの案だと思う。みんなが同じ土俵に上げられるような形にしたいが、今のままでは振興協会さんもノーというかなと思う。

【岡本委員】

運営の方で、振興協会にこの時間のここで踊ってくれっていうのはあくまでお願いベースであり、決めて踊れとは言えない。

【豊永委員長】

今話している案については、振興協会に協力いただけないかという話であり、実行委員会や運営協議会も色々な案を持っていると思うので、有識者会議としてはこういう案もあるということになる。

【清水委員】

各連にも事情があるため、振興協会にも、意見を十分聞く必要はある。

【岡本委員】

例えば、有識者会議として、振興協会に意見を伺う事は可能なのか。この場に来てもらうことではなく、おそらく振興協会は、昔通り南内町の2部で踊るのが1番のご希望だと思うが、それは置いておいてそれ以外の方法で、振興協会の方で案や希望はあるか聞くことは可能なのか。

【豊永委員長】

聞くのが良いか悪いのかという問題があるが、有識者会議が振興協会に意見を聞くのであれば、実行委員会にお伺いを立てないといけないと思う。だから我々は独自の考えで自由な発想でやる。やはり、中に入っておられる方の意見を聞くとしたら、平等に聞かないといけない。それをやっていると時間がないので、我々がこういう提言をして実行委員会の方でどう具体化していくのか。実行委員会、振興協会、運営協議会も利害関係があるので、思い切ったことが言えない。

前回会議での出演料について報道されて、私の周りでは聞いた限り反対する人は誰もいなかった。出演料を支払っているとは知らなかったと、赤字であるのに支払うのはどうか、参加費を貰うのはいいのではないかという意見が多かった。

【清水委員】

自分自身も踊り手ではあるが、参加費を貰った方がいいと思う。

【豊永委員長】

市民は赤字であるのに出演料を支払っていると知らなかった。他の祭りでは支払っていない。出演料を支払うのはどうかと思うという意見が自分の周りでは多かった。

そういうことから、岡本委員の振興協会から話を伺うのは、現場の人の話になってくる、現場の代表として清水委員が入っているので、特に我々は振興協会に伺う必要はないと思う。

【清水委員】

今まで、出演料を支払ってきた中で市民感情を考えると、今回からは切り換えて方向性を変えていくのは大事だと思う。

【豊永委員長】

先ほどの話に戻るが、総おどりをやるとすれば張り付けとの関係がある。最後の方に総おどりを持ってくれば別とは思いますが、途中はいろんな連が、企業連と一緒に踊っているということなのか。

【事務局】

別紙1で言うと、括弧の二重丸のところは有名連を表している。例えば別紙1の12日の藍場浜18時6分のサンスターの横に蜂須賀と書いているが、サンスター連が踊るときに蜂須賀連と一緒に踊り込んでいくことを表している。

【豊永委員長】

例えば、13日の市役所前で19時42分のひまわりと書いているが、これは弁護士会の連であり、菊水連がいつも一緒に踊り込んでいる。30年くらい前に30万円ほど有名連に支払いをしたことがある。ほかの企業連も大体それぐらいの金額を支払っているのではないかと思う。

【清水委員】

お客様を抱える場合があるので、なかなか大変だが事情説明してできる限りの協力

をしていただきたらと思う。

【豊永委員長】

張り付ける段階で工夫ができるということか。

【事務局】

張り付けていく順番で言うと、18時、18時30分、19時と30分ごとに有名連を張り付けていき、その次にその間を埋めていく作業になる。

【豊永委員長】

有名連、企業連以外の一般連はその間に抽選で入っていくことになる。この張り付け表は今年の表なのか。

【事務局】

今年の表である。

【豊永委員長】

市役所前で総おどりをしたり、4つすべての演舞場を回るのはどうか。

【清水委員】

何点か案を出して、客が入ってないところにてこ入れするのが一番だと思うが、相手があることなので、相手の意志を無視するわけにはいかない。

【福山委員】

総おどりは南内町の人気がなかったから始まったのか。

【岡本委員】

南内町は人気がなく、運営を担当していた振興協会がいろいろ話し合っ、お客さんをお呼ぶためどうしようっていうので始まったと思う。

【福山委員】

工夫して、南内町を支えとるという自負を振興協会は持っているかもしれない。

【福山委員】

人気がないところを盛り上げるために協力してほしいと言って、一番人気がないところで踊ってもらうのはどうか。

【清水委員】

会場はたくさんあり入るところには入っている。南内町だけにこだわるのはどうなのか。南内町へ行くファンはたくさんいるが、両国本町の無料演舞場や藍場浜、紺屋町にもファンがいる。今回は総おどりだけがメインに出てしまって問題になったと思う。

【豊永委員長】

南内町でしている総おどりは、振興協会の連だけで踊って他の連は一緒に踊らないのか。

【清水委員】

そうである。去年は振興協会16連で踊っている。

【豊永委員長】

実行委員会の案は、総おどりという形でなく有名連を分散させ、踊っていただくようにしたと思う。

【岡本委員】

資料2の説明はあるのか。

【事務局】

資料2 議論の取りまとめに向けて説明

【豊永委員長】

ある程度議論が固まっているところと固まっていないところとがあり、固まっていないところを中心に話をしていきたいと思う。

踊り連のどこからどのくらい参加費を取るのかという話が岡本委員の資料に出ているが詰まらなかったもので、案として決めてしまうのはどうか。前は一般の連から参加費を取らなくていいと思ったが、よさこい祭りは全ての参加者から取っている。弁護士会の連や企業連と一緒に踊る有名連にお金を払っている。それなのに実行委員会に払わなくてもいいのはどうかと思う。大学連にしても収入がないとはいえ何十人もいるからある程度の参加料は貰ってもいいとは思う。貰わないのは障害者の方の連などで、それ以外は多少は参加費を貰ってもいいのかと思う。

岡本委員の資料では、企業連は4日間で10万であるとなっている。

【岡本委員】

有名連も含め多めに払ったところは多めに出演させるようにしてもいいと思っていたが、料金設定をいくつか作ると運用が大変になるので、シンプルな方がいいのかなと思う。企業連は協賛金にも関わるが、あくまでも阿波おどりを応援していただく参加費として10万円ほど各お抱えの連に払うのと別枠でお願いするのでいいのではないかな。あと、学生連は難しいところではあるが、今は学生の数も減っており未来への投資ということで、参加費を取るにしても格安にするのがいいと思う。

【豊永委員長】

学生連は4日間で1万円や1回2,500円とかでいいのではないかな。

【岡本委員】

学校で出ている小中高は無料でなければかわいそうだと思う。障害者の方、高齢者の方、ボランティア団体は無料でいいと思う。

【豊永委員長】

いろいろな連があり具体的な張り付けとなるとイメージがあんまり沸かない連がある。

【岡本委員】

両国本町演舞場の15日を見ると菊水連、えびす連、うきよ連、満月連、この辺りの有名連は参加費をいただいた方がいい。4日間若しくは1日幾らかという風にわけてもいいと思う。レレレの連は貰っても貰わなくてもどちらでも良いかと。城西高校など

はもらわない方がいいと思う。

【清水委員】

12日では、ほんと連やねたきりになら連などは、多分障害者の連だと思うので、無料でいいと思う。

【岡本委員】

障害者、高齢者、ボランティア、未成年の連、そのあたりは間違いなく無料にしてあげるべきである。

【豊永委員長】

資料の中に、小学生ばかりの連はあるのか。

【岡本委員】

佐古小学校の愛日連がある。小学生から取るわけにはいかない。学校のクラブ活動の延長で一生懸命やっているところは、阿波おどりの未来の踊り手の育成、阿波おどり人口の確保として無料でいいのではないか。

【豊永委員長】

学生連が悩ましい。

【岡本委員】

大学生の連の取り扱いをどうするか。

【清水委員】

高校生は踊る場所が限られている。春のそごう前の踊りや秋の踊りも依頼されて、土日の2日間を徳島商業高校にお願いをしたら快く引き受けてくれた。来年についてはお盆4日間の昼間もぜひ出てほしいと、また鳴門教育大学の学生連にお願いをしている。

【豊永委員長】

資料に出ている通過連というのは無料演舞場についてなのか。

【事務局】

有料、無料合わせたすべての演舞場になる。

【豊永委員長】

以前に800連と聞いていたが。

【事務局】

800連と新聞報道があったが、それは演舞場以外のところも含めての数字である。

【豊永委員長】

演舞場を通過している連の数は、これが正確な数ですね。

【清水委員】

参加料は、基本的に有料演舞場を踊り込む連についてはいただくということで、無料演舞場まで取るとなると酷なような気はする。

【豊永委員長】

設営には費用がかかっている。連でいうと障害者連は無料、学生連は小中高が主体になっていれば無料、ここまではよいが問題は大学生についてどうするか。

【福山委員】

バイトすれば出せると思う。

【豊永委員長】

学生連の参加費の金額として考えているのは、4日間でも1万円、1日でも1万円を想定しているがどうか。

【岡本委員】

最終は実行委員会が決めるのですね。

【豊永委員長】

有識者会議の案としてはどうかということで、両論併記でもいい。

【岡本委員】

それでは、ある程度幅を持たした金額でいいのではないか。例えば0円から1万円や5千円から1万円など。

【豊永委員長】

ある程度決めてあげた方がよいのではないか。我々は言い放していいから。

【清水委員】

参加費を出す方からすれば、額は決めて貰った方がよいと思う。

【岡本委員】

確かに大学生の連は運営側にお世話になっているには違いないので、最低金額は出した方がいい。大学生だったら4日間で5千円から1万円くらいがいいと思う。

【豊永委員長】

1日踊っても4日踊っても1万円でもいいか。では、企業連はどうするか。

【岡本委員】

自分は10万ぐらいがいいと思う。あまり大きくすると、各支店の経費とかもあり、なかなか支出が難しいのではないか。

【豊永委員長】

4日踊っても、1日踊っても10万円ということか。

【岡本委員】

1回参加で10万円である。今後、新しい運営主体が決めることではあるが、企業連も必ず媒体効果や費用対効果が問われる、10万出すからにはどこかのパネルに名前が載るとかなど工夫は必要だと思う。花火をしている水都祭も、スポンサーを募った場合はパネルに名前を入れたり、モニターに出したりしている。

【清水委員】

阿波おどりガイドに名前を出してもらうなど。

何かをしてあげなければ、参加費だけ出せと言っても抵抗があると思う。

【岡本委員】

媒体効果を出すということを前提で、10万円以上はいただく。

【豊永委員長】

テレビ徳島なんかはずっと阿波おどりを放送している。ローカルではあるが、再放送もしており、宣伝効果はあるだろう。

【岡本委員】

4日間で10万円であれば出しやすいと思う。小さな支店であっても決裁がおりやすいのではないかな。

【豊永委員長】

1日だけでなんで10万円も取るのかというところがあるが。

【岡本委員】

それは、阿波おどりを応援していただくということをお願いする。

【豊永委員長】

有名連はどうするか。

【岡本委員】

私は5万くらいだと思う。

【清水委員】

県下有名連というのは、登録しているのを含めて80連くらいなのか。

【豊永委員長】

この資料にある190連というのは延べということなのか。ほぼ毎日踊っているということか。

【事務局】

そうである。

【岡本委員】

私の案はハードルが高いので、もう少し安くてもいいとも思う。でも、有名一般の区別をつけず5万円からスタートでいいのではないかな。

【豊永委員長】

企業連10万円、一般連及び有名連は5万円、学生連は1万円、小中高が主体及び障害者連は無料。

【岡本委員】

例えば、企業連から10万円いただくことができれば、単純計算で延べ400連近く踊っており、参加連数が半分だったとしても2,000万円くらいになる。

【豊永委員長】

有名連も大体40連くらいとして5万円200万円くらいになる。それなりに負担をしてもらうということで、2千数百万上乗せになるから収支改善が一定図られる。

【木村委員】

そうなる連の張り付けの手順が大変になる。

【豊永委員長】

貰う方ばかり考えていたが、参加費を支払うのであれば、ここに入れろなど言われるかもしれない。連の張り付けは実行委員会が行うのか。

【事務局】

実行委員会で行う。

【岡本委員】

踊る連は抽選になるのではないかと。有名連とそれ以外の連、県外連などを時間の枠で決めてその中で抽選しなければならないのではないかと。

【事務局】

今までのやり方と言うと、18時、18時半、19時、19時半と30分ごとに有名連を張り付ける。その次に間の時間帯を募集して受け付けをする。たまたま一つの連しかなかったらそのまま入り、希望の時間帯がいっぱいであれば、事務局の方で調整して貼り付けていく。

【豊永委員長】

議論が詰まってなかったところでいうと、有名連等に対する出演の他に、にわか連やシャトルバスがあるが、来年はそのままでもいいか。

【岡本委員】

これは先の話になるが、体験型の収入を増やすときに、にわか連の扱いが大切になってくる。にわか連の運営助成金が18万円になっているが、これはむしろ上げてもいいと思う。お抱えの企業をもたず一生懸命やってくれているので、にわか連に入れば連の運営費も助かるというようになればいいと思う。

【豊永委員長】

にわか連に参加するのは無料なのか。

【事務局】

にわか連に参加する県外客の方などは当然無料である。鳴り物もなく、踊り方もわからないため有名連に付いて、教えていただき一緒に演舞場に躍り込んでいただく。その金額が1連18万円ということになる。

【岡本委員】

この金額はもっと上げてもいいと思う。

【豊永委員長】

にわか連に張りついている連にはお金を出すということでもいいとは思いますが。あとは、着物の着付けを有料にするかなど。

【清水委員】

事務局の資料では、にわか連の資料を見ると4日間で16連出ている。

【岡本委員】

にわか連の参加費は3000円払ってハッピを貸してもらい、踊り終わってハッピを返したら2500円の返金がある。500円はクリーニング代だった。いくらなんでもそれは大盤振る舞いしすぎではないかという記事があった。自分たちがおどり文化を楽しむのであれば、お金を払った方がいいという意見が出ており、なるほどと思った。ハッピをどうするかもあるが、例えば紙製のハッピでお土産として持って帰って貰ってもいい、うちわも含めて持って帰ってもらってもいいと思う。そういったノベルティ的なものをつけて5千円とか1万円とかにしても十分に参加してもらえらると思う。無料だからあれだけ集まっているわけではないと思う。

【豊永委員長】

ある程度残るような物をつけて、それなりの金額を払っていただく。

【岡本委員】

結局今の状態では収入はゼロである。体験型の収入はこれから絶対必要である。徳島がやっていないだけで他の祭りは行っている。

【豊永委員長】

県外から来た弁護士の方が浴衣を着て踊りたいと言った時に弁護士会の連では浴衣を用意している。にわか連で踊るだけではなく、手間はかかるが、それなりの仮装をして、その分は世話をする人に還元する。一定の金額をいただくというのもありだと思ふ。

【清水委員】

にわか連を踊った人から、ハッピを着て踊ると連の一員になれたようでいい思い出ができたという意見をよく聞く。

【豊永委員長】

そういった場合に、着替えの場所や保管場所が必要になる。

【清水委員】

ただ、にわか連の場合はハッピを羽織るだけで、帯はなかったのか。

【事務局】

帯はなく、ハッピを着るだけである。徳島市の事業で水都連というのがあり、それはきちんとした衣装で着付けまでやっており、市役所の13階の会議室の方で有名連の方に手伝っていただいている。水都連は参加料3,000円をいただいている。

【岡本委員】

それでも安い。

【豊永委員長】

水都連は何人ぐらい枠があるのか。

【事務局】

1日120人ぐらいだったと思う。

【豊永委員長】

だいたい埋まっていたのか。

【事務局】

そうである。抽選に漏れる方もいた。

【豊永委員長】

もっと増やしてもいいのではないのか。

【岡本委員】

着付けで言うと、踊りには参加しないが浴衣を着て街を歩きたい人は絶対いるため、浴衣を貸し出すという商品も用意した方がいいと思う。これは阿波おどり会館がやればいいのと思う。

【豊永委員長】

さっきの着付けは決算の中に入っているのか。

【事務局】

水都連は徳島市の事業として行っており、阿波おどり事業の決算には含まれていない。

【豊永委員長】

水都連の参加者が150人になったら、飛躍的に負担が増えるのか。

【事務局】

着物の数には限界があり、買い足す必要がある。参加費の3,000円はクリーニング代になる。

【岡本委員】

それでは実質収入はゼロである。もっと取らないといけないのでは。

【福山委員】

それは徳島市の事業としてやっているのがネックになると思う。徳島市から切り離して阿波おどり事業にするのか、どこで商品化していくのか十分議論しなければいけない。

【豊永委員長】

方向としては体験型をもっと加えていった方がいいということか。

【福山委員】

どうせなら今まであるノウハウを頂けるのであれば頂くというのもいいと思う。

【清水委員】

ハッピーは1枚どれくらいで作っているのか。

【事務局】

にわか連で提供しているハッピーは1枚、1万円前後だったと思う。

【岡本委員】

ノベルティ用の安いハッピーもあるので、本格的なものでなくてもいいと思う。

【清水委員】

にわか連のハッピーが1万円ぐらいするのであれば、最低でも1万円いただかなければ

ばいけない。

【岡本委員】

いいハッピー利用する場合はそうなるが、もっと安いハッピーでもいいと思う。あとは有名連の方に協力をお願いして、古い浴衣を寄付してもらうのもいいと思う。

【清水委員】

自分の連では、たまたま企業が作ったハッピーを子どもに配っていた。もし企業が作ったハッピーがあるのであれば、PRになるので踊ってもらいたいという企業もあると思う。

【岡本委員】

先の議論になると思うが、にわか連は民間委託した時に運営元が金額等を決めたらいいと思う。

【清水委員】

うちわもピンからキリまである。多分大量に作ると1本100円を割るような値段で作成できないのか。

【岡本委員】

うちわは、500本作っても300円以上する。1,000本作っても200円台になる。

【豊永委員長】

次回の会議までにハッピーの価格やクリーニング代がどれくらい必要なのかという資料を出していただきたい。

【岡本委員】

クリーニングすると管理業務が発生するので、着たらそのままお客さんにプレゼントする形で安いハッピーを作って、うちわも全てお土産として持って帰ってくださいう形の方が絶対に喜ばれると思う。

【豊永委員長】

観光客に鳴り物指導を行うのは難しいのか。

【岡本委員】

鳴り物が好きな方もいる。南越谷とか高円寺などで阿波おどりの鳴り物パートの方がそれだけ見に来ているケースが結構いるが、大々的にはできないとは思う。

【豊永委員長】

事前申し込み制でいいのではないか。

【岡本委員】

鳴り物教室みたいなのをやれば十分ではないか。

【豊永委員長】

鳴り物で阿波おどりはまったら、次は踊りを見たいといことになるかもしれない。

鳴り物が中々用意できないので、有名連に入っていただくことはあるかもしれない。

【清水委員】

大体踊り子はスタートから鳴り物と踊り子に分かれてしまう。女性の場合はある程度の年齢になると、鳴り物に移行するケースが多いように聞いている。

【豊永委員長】

本来議論しなければいけない、運営体制を今後どうするかだが、今は運営協議会から意見を吸い上げて、実行委員会で運営している。実行委員会は今年いろんな事情があって、市長が実行委員長をしている。市が丸抱えで運営していくのは、祭りの運営の方法として方向性は正しくない。ただ、今の実行委員会と運営協議会について、来年どうするかを提言しなければならない。前回の議論で大体まとまっているところは、民間委託したらいいのではなく、毎年検証する機関と実行委員会の運営をどうするかということ。他の県外の祭りを見ると商工会とか商工会議所など民間の方が中心になっていることが多く見受けられる。

【豊永委員長】

実行委員会に提言するとすれば、どういう形がいいのか。前回の会議では実行委員長は誰か別の人がなるといった話があったが実際どうか。

【岡本委員】

実行委員会の人選をこちら側で行うのか。

【豊永委員長】

人選ではなく、我々としては市長が実行委員長はふさわしくないと、そもそも民間のお祭りについては民間が利益の出る方向でやった方がいいのではないかと。将来的には。ただし、まず来年はどうするのかということである。

【岡本委員】

とりあえず、民間委託して実行委員会は管理監督をする形になる。監督にふさわしい方となれば、ある程度公的な役職を持っている方のほうがいいのではないか。

【清水委員】

一番肝心なことは、意見が言える人。これがなければ、何の進歩もなく、また同じことを繰り返されると思う。

【豊永委員長】

実行委員会の構成としては、事務局が出している資料に実行委員会が8団体で運営協議会が24団体。意見を言う人は入っていると思うが。

【竹中委員】

前日も言ったように、団体であれば言い放しになる。言い放しになってしまい事業に反映されないという体制になる。たちまちの体制としては、資料にある南越谷のように意見が反映される組織をまず作って、来年は運営していただかないといけないと思う。

【豊永委員長】

例えばどのような体制なのか。

【竹中委員】

たちまちは、南越谷方式だと思う。

【豊永委員長】

南越谷は現場の人が運営に入っている。

【竹中委員】

そこに実行委員会の承認機関みたいなのがある。

【岡本委員】

南越谷は、最初からオペレーション前提の運営で委員会組織が出来上がっている。

【豊永委員長】

南越谷のように、現場の人、決定をする人が入り全体像が見渡せる中で各現場の意見をまとめてやっていくという体制。

【竹中委員】

このような体制であれば、現場の意見が完全に反映されて実行することができる。ということは逆に意見したことは責任持つ体制にはなると思う。

【清水委員】

例えば、運営協議会の中で徳島市旅館組合の会長がいる、各連に支払っている出演料についても提案しているわけである。そういうことがなぜ今まで役員でありながら、黙っていたのかと言いたくなる。

今日考えたのだが、役員になる場合は極端に言えば赤字が出たら、自分たちが背負う、そこまでの責任を持ってもらいたいと言いたい。今までの経緯を見たら、赤字が累積してきて、自分の腹が痛くならないため、書類だけ見て異議無しで終わっている。だから、こういったことになっている。民間に委託した場合はこんなこと無くなると思う。

市もいろいろな絡みがあると思うが、もう一度見直しをして、皆さんから意見を聞き責任感を持ってもらうような形にしなければならないと思う。

【豊永委員長】

今年で言うと、市の担当者が実行委員会の事務局の作業をしていたのか。

【事務局】

今年市は市の担当の方で契約なり作業をしている。

【豊永委員長】

そうすると来年も同じ体制でしなければならなくなる。今年市の担当で作業しているので、ある程度ノウハウが分かったものは文書化して、委託できるような形にまとめたいという話だったと思う。

【事務局】

どのような提言が出るかまだ決まっていないが、そのようなことも可能だと考えている。

【豊永委員長】

来年、いきなり民間委託をするのは無理ではないのか。

【福山委員】

南越谷阿波踊り運営事務局6人は普段はどのような立場の人なのか。

【岡本委員】

委員長は商店会の会長が務められている。

【豊永委員長】

南越谷の実行委員会の構成としては、商店会、阿波踊り振興会、商工会議所、観光協会、越谷市、民間団体、JRなども入っている。

【福山委員】

各団体一人ずつ出ているようになっている。

【豊永委員長】

南越谷で言うと、実行委員会の中に運営協議会の入っている団体になっている。

【福山委員】

それぞれの組織から、大体割り当て決めて人を入れてもらうようになっていると。

【豊永委員長】

おそらく、よさこい祭りは完全に商工会議所主体ということか。

【岡本委員】

元々、よさこい祭りは商店街の振興のために立ち上がった祭りである。

【福山委員】

後は職務の分担であるが、事務局や招待連委員会など、それぞれに目標があり、達成状況の報告があつて整理をして、来年どうするか決めるように、それぞれに役割分担している。

【竹中委員】

予算をそれぞれの委員会から必要金額を出して、全体でまとめていくらになるのか、それで赤字になるかどうかの話をそこでできているはずである。

【豊永委員長】

来年について今年と別のやり方をするとしたら、事務局体制が来年はゼロから作り上げていかなければならない。今年は徳島市が経験して、ある程度ノウハウはまとめられるが、それがゼロからになる。何年かやって蓄積されている他の祭りとはちょっと違う。将来的に目指すのがいいと思うが、来年はどうするのがよいか。

【岡本委員】

少なくとも運営協議会は実行委員会と一体でやるべきじゃないかと思う。例えば、ライオンズクラブ、ロータリークラブなどは、中にいろんな委員会が立ち上がって、そこにほぼ強制的に会員が振り分けられている。今のままだと運営協議会は意見をいうだけの組織になる。実行委員会には責任があるので、この8団体はそれなりに覚悟決めてやっていたと思う。運営協議会の24団体の方々が悪いわけではないが、仕組みとして意見を聞くだけの形になっているので、決定する部分にも入っていただくのがいいの

ではないか。

【豊永委員長】

実行性のある体制の場合、普通は上部に決定機関があり、下に担当する委員会がある。各委員会で意見を揉んで上で最終決定する。今の運営協議会であれば、意見を言いつばなしになるが、委員会を部門ごとに分けて入っていただき、そこでの計画を最終的に実行委員会で決める。各委員会として意見をまとめるという形にすれば実行性があるかと思う。今年の市の経験から、どういう形で委員会を分けるのがいいのかは事務局でイメージできるのか。

【事務局】

色々意見をいただいているところだが、大学などは今年から新たに運営協議会に入ったが、それ以外は昨年までの実行委員会に参加している団体である。今回は住み分けで、幅広く意見を聞く諮問機関という位置づけで、実際に責任を負う部分は実行委員会というやり方で運営した。今年運営してみたことと、今のご意見を踏まえて、そのような体制でやっていったらいいのかは、考えなければならない状況と認識している。その中で、ここの部分については、次回でもなかなかまとめるのは難しいと思うので、時間をいただき、事務局でも調べさせていただいて、委員の皆さんの考えをいただき、あるべき姿を探っていきたいと思っている。

民間委託の話も出たが、受託の会社の方に赤字の責任は負っていただき、オペレーション部分や祭りの在り方などは、実行委員会、地元、各団体なりでしっかり詰めて、それを実現してもらうように、その事業体にもチェックが入る仕組みを作って、そこで赤字は市とか行政とかが負わないようにする。ただ稼いでもらったお金については基金等の方に入れてもらって、阿波おどりの振興にも役立てていただいくというような、他で類を見ないようなシステムが出来上がればと思う。関係者もいろいろ関わって、赤字の部分も切り離す仕組みをどうすればできるか、実行委員会や運営協議会をどう組み換えていくかを少し時間いただき、事務局で考えて、各委員にも考えていただきたいと思う。

【豊永委員長】

民間委託するとすれば実行委員会を下にぶら下げてやる必要はない。委託すれば、受託業者が行うことになる。今日は両論併記という形で良いと思う。

【岡本委員】

経過措置として委員会方式をするのか。

【豊永委員長】

来年、民間委託までもいけないのであれば、ある程度そういう方式に変えた方がいいのかと思う。

民間委託するのであれば、どのような提言をして、仕様書を作るといふか指定管理をする時に最低これだけはやってほしいということをどの様に反映するかという側面が

出てくると思う。

【木村委員】

仮に委員会ができ、南越谷方式で考えると、警備委員会で300万円なら300万円の予算があり、その中で最適な提案を行い、民間委託する業者を選んできてもらい、どのようにパーツに分けるとスムーズに前へ向いていくと思う。

【岡本委員】

全体を一括で委託するのではなく、まずは一部ずつ委託を行うということか。

【木村委員】

警備、設営、運営、集客などいろいろ分かれると思う。

【岡本委員】

全体一括の移行段階で一部を委託するということか。

【豊永委員長】

そういう考え方もある。今度12月上旬に出てくる支出の関係の明細と全体像の中で、全面的に民間委託するとしても、なかなか引き受けるところがないのでパーツに分けるのも一つの方法である。

【木村委員】

警備委員会があって、その中で最適な警備で予算がどのくらいが妥当かを揉んで、そこで仕様書を作成し最適な民間業者選定していくという方法もありだと思う。

【竹中委員】

そういうステップを踏む必要があるかもしれない。

【木村委員】

その委員会をチェックできる体制が必要であり、しっかりチェックしなければ、グチャグチャになる。

【豊永委員長】

運営体制については、全体の支出構造も踏まえて議論したいと思う。

【清水委員】

市を含めて意見したのだが、1つは学生連の見直しをしていただきたい。先ほどもあったが、若者の発掘ということだが、四国大学と文理大学がかなりがんばっており、有名連が情けなくなると思うほどである。

【豊永委員長】

それほどレベルが高いのか。

【清水委員】

学校との絡みもあるが、できたら学生連を有名連の中に入れてあげて打診してあげたらいいのではないか。若い人にもチャンスを与えてあげて実行委員会にお願いしたいと思っている。

もう1つポスターについて、どこの阿波おどりを見ても必ず地名が阿波おどりの頭

にある。池田阿波おどりや鳴門阿波おどりなど、徳島市は阿波おどりだけである。やはり徳島市ということ的位置づけるのであれば、徳島市阿波おどりという風にポスターを変えていただいた方がより親しみが沸くのではないか。それと、ポスターは以前観光協会が一般公募して製作していたと思うが、今年は募集する時間がなかったと思う。来年以降は一般から幅広く公募してその中から選んであげるのも大切だと思う。

【豊永委員長】

ポスターについては提言すればいいと思う。ポスター公募はいいと思う。ポスターを作る時期はいつ頃になるのか。

【事務局】

ポスター出来上がりはまだまだ先で5月ぐらいには決めていたと思う。

【岡本委員】

宣伝などもあるので、ゴールデンウィーク明けぐらいには決めておく必要がある。

【事務局】

来年のポスターについては、今年の阿波おどりの写真を広く一般に募集している。今年のポスターについては、募集する時間がなかったため、徳島市が所有している写真の中から選んだ。

【清水委員】

今年はいろいろなことがあったので、来年は何もかも早めに手を打っていただき、徳島をPRしていただきたい。以前も言ったが、報道関係にもお願いしたいのはできるだけ正しい報道を早くしてほしい。

【豊永委員長】

提言するとすれば、来年以降もポスターについては公募されたらどうかということになる。翌年度のポスターは前年度に募集して、最終的に実行委員会で決めていただく。

【岡本委員】

次回以降になると思うが、収入でどうやって増やすか、お客さんをどう増やすかという話もあるが、やはり事業の検証なので支出の構造の議論もある。出演料の見直しや参加費、協力金の徴収で大筋は議論としてまとまったと思うが、今後警備費用がますます上がってくると思う。個人の希望としては今の交通規制のエリアは維持したいが、他の阿波おどりみたいに演舞場でしか踊れないのは阿波おどりの文化の厚みとしては薄くなる。できたら演舞場以外の輪踊りを含めて、楽しめるエリアを確保していただきたい。その前提で今の道路交通規制のエリアが適正なのかどうかの見直しをしなければいけないと思う。秋田町のエリアが広がったがどこが運営していたのか。

【事務局】

秋田町には秋田町おどりロード実行委員会があり、警備費用などの負担をしていた。

【岡本委員】

阿波おどり関係者から、紺屋町演舞場はそれなりにコストがかかると聞いたことが

ある。栈敷を毎回作って一部移動車が通れるようにする。この手間がすごく大変ということを知ったことがある。その栈敷の設営費用や警備費用も含め、ここで議論して収入を上げて良かったが、何年後にまた支出が上がり赤字になる可能性があると思うので、その部分も含めて検証はしないといけないと思う。

【豊永委員長】

私が思ったのは有料演舞場で特別観覧席が5,000円であるが、前夜祭とか選抜は有名連の洗練された踊りを見るのに2,600円は安すぎると思う。

【岡本委員】

安すぎる。前夜祭や選抜は5,000円くらいが妥当だと思う。

【豊永委員長】

値段的に前夜祭と選抜は5,000円でもいいとも思う。

有名連が踊っているところと、学生連などが酒飲みながら歩いているだけのところでは、値段をあげた方がバランス良い気がする。支出の状況や民間委託に関ってくるので、また次回に議論したいと思う。

【岡本委員】

事務局に質問だが、前夜祭のときに各協会に200万ずつ支払いをしていたと思うが、それは200万の中でお弁当などを含めてやり繰りするという意味であるのか。

【事務局】

駐車場代なども含めて、そういうことである。

【豊永委員長】

それも含めて弁当代と駐車場代で400万円近くかかっている。

【木村委員】

結局、支出額としては同じである。

【岡本委員】

それでも、半額になると思う。200万円ずつであったので、けち臭い話だが、それでも払いっぱなしよりは、実費の方が公平明大だと思う。

【事務局】

資料2の開催概要について、実行委員会でもいろいろ議論があったが、来年の旅行商品の造成のことを考えると、この議論については、できれば年内には意見を取りまとめていただくと非常にありがたい。

【豊永委員長】

来年は12日から15日で行くという話になっていたと思うが。

【事務局】

次回の12月21日までに、事務局の方で整理させていただき、来年の開催概要について議論していただけたらと思う。

【豊永委員長】

それでは、まだまだ議論は尽きませんが、ある程度決まるところは決まったと思う。
それでは次回は12月21日午後4時からの会議ということで、以上を持って第3回
阿波おどり事業検証有識者会議を終了する。

